

ぶんぶくちやがま

望月正子●文 二俣英五郎●絵



ワンダー民話館





ワンダー民話館

ぶんぶくちやがま

二〇〇五年十一月一日 初版第一刷発行

文 月正子 絵 二俣英五郎

発行人 小林公成

発行 株式会社世界文化社

東京都千代田区九段北四二二二九

〒一〇〇二一八一八七

電話〇三(三二六二)五二一五(販売本部)

〇三(三二六二)五二二一(編集部)

印刷 共同印刷株式会社

製本 株式会社大観社

禁無断転載・複写

©Morouo Mochizuki, Eigorou Hutanata

5836 Printed in Japan

Japan 4-418-05836-2

紙で手を切ることがあります。

絵本の扱いには十分ご注意ください。

ぶんぶくちやがま

望月正子 ● 文 二俣英五郎 ● 絵

蘇工業学院図書館
蔵書章



定価： 本体476円 + 税



ぶんぶくちやがま

文●望月正子 絵●二俣英五郎



む

かし むかし、ある むらに、しょうじきな
ふるどうぐやの おじいさんが おった。

まちから、ふるどうぐを かって きて

うるのだが、ひとが いいから もうからん。

いつも ひどい びんぼうだったって。

ある ひ、おじいさんは、こどもたちに こづかれて

いる たぬきを みかけてな。

「これこれ、いきものを いじめちゃ いかん」

って、こどもたちに なけなしの ぜにを

やって たぬきを にがして やったと。





お

じいさんが いえに もどると、
さつきの たぬきが やって きて、

おれいを したいって いうんだと。

「おてらの おしょうさんが、

ちやがまを ほしがって いました。

おいら、ちやがまに ばけるから、

それ うって もうけて ください」

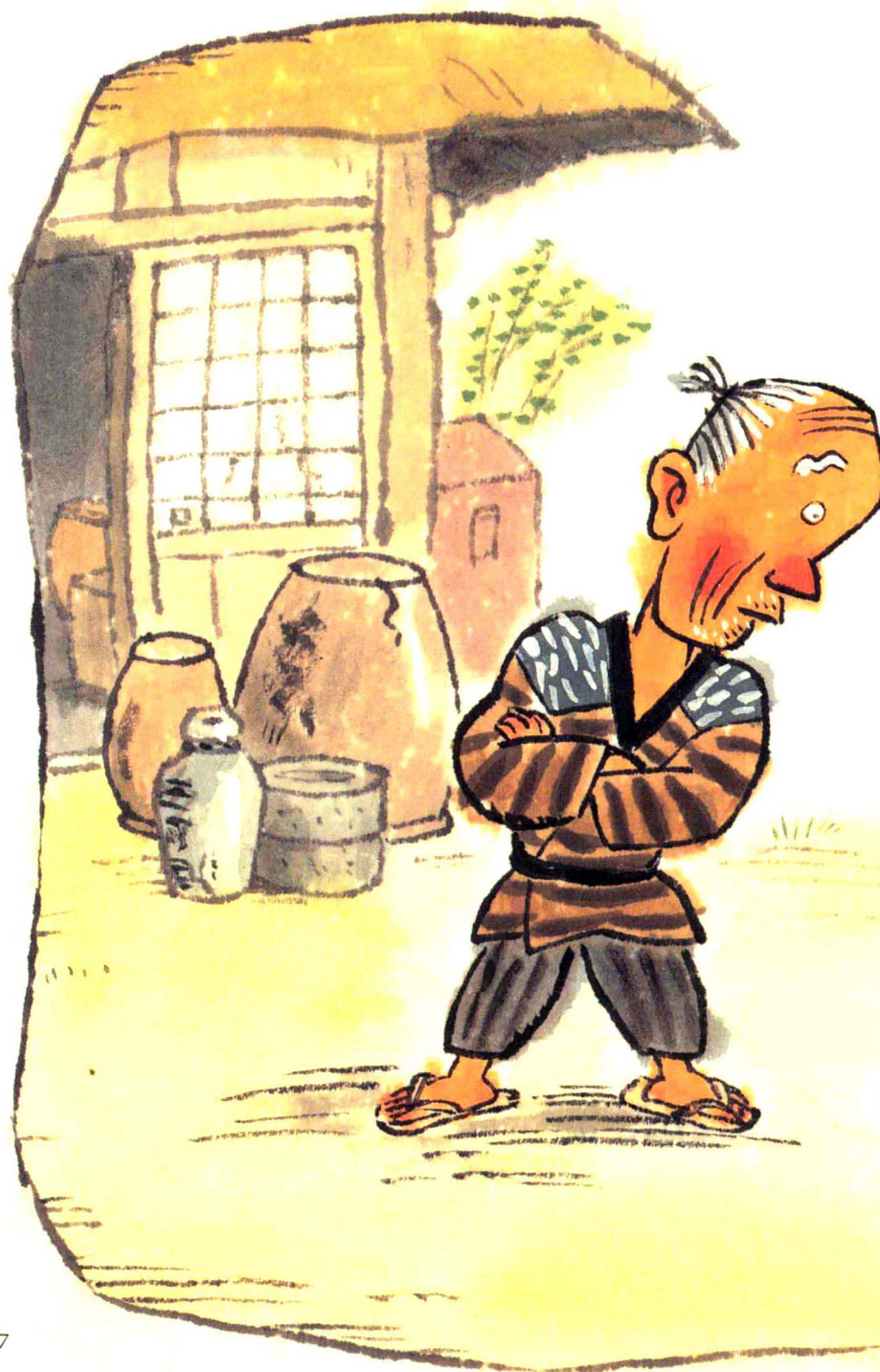
いうが はやいか たぬきは、

くるくるつと ちゅうがえり。

すんと おりたら、ちやがまに

なつてた。





「ほ

ーっ、みごとな ちやがまだ」

って、おじいさんが たまげて いると、

「どうです、こばん にまいには なりますぜ」

って、ちやがまが いう。

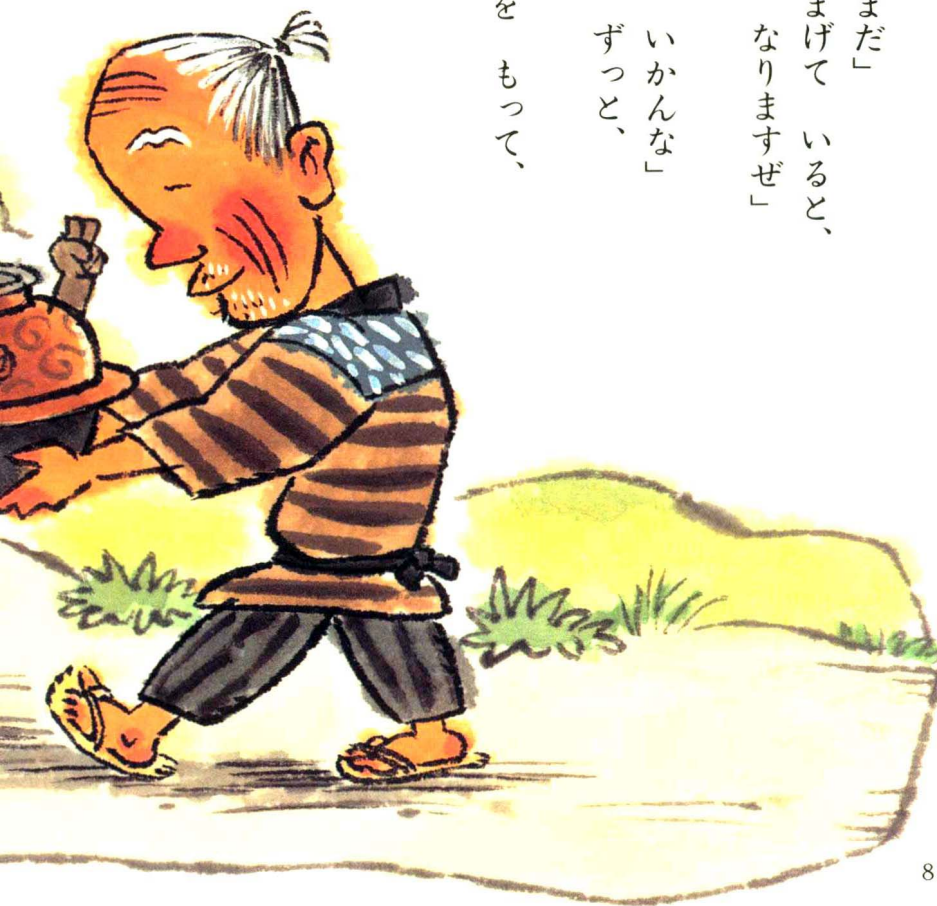
「だがのう。ひとを だますのは いかんな」

「だましたりは せん。このまま ずっと、

ちやがまで いますき」

そこで おじいさんは、ちやがまを もって、

おてらへ いった。





「お

しょうさん。いい ちやがまが ありますが、
みて くだされ」

おしょうさんは、ひとめで きにいった。

「じゃが、こばん にまいは たかいな。

どうじゃ、いちまいで かおう」

おじいさんは あっさり まけて うっちまった。

そして、たぬきの ことを

あんじながら、かえって いったと。





さ

て、おしょうさん。

ちやがまを とこのまに おいて、ほくほく

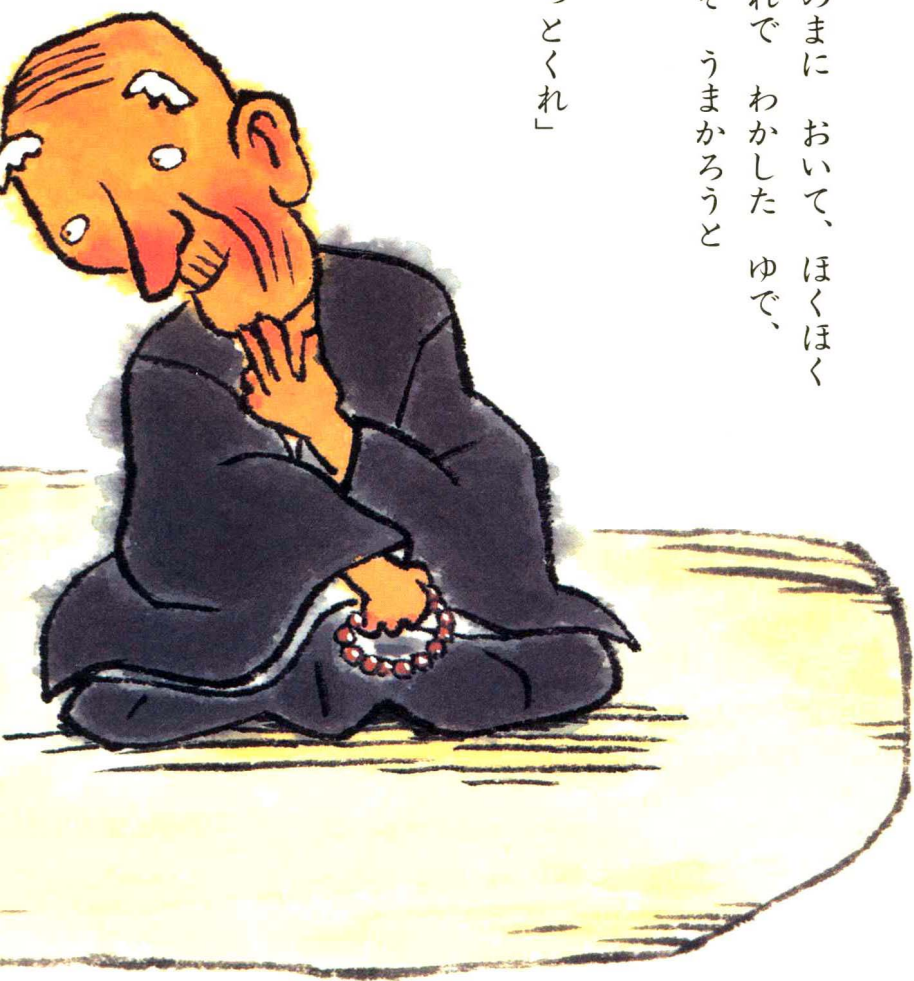
ながめて おったが、これで わかした ゆで、

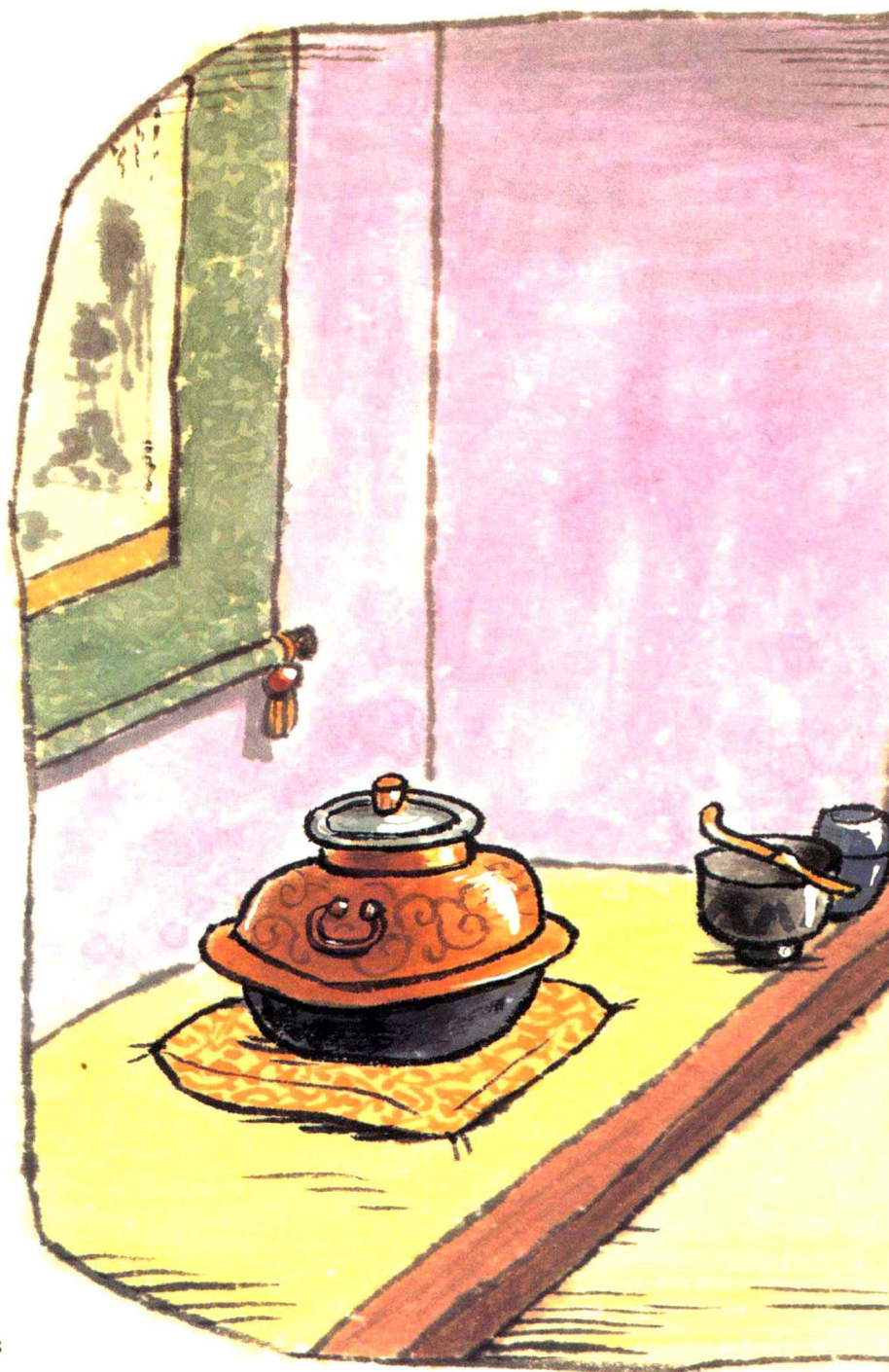
おちやを たてたら、さぞ うまかろうと

おもいついた。

「これ、こぞう。

この ちやがまを あらつとくれ」





ア

らの こぞうが、ちやがまを あらうと、

『こぞう、もそつと そつと

そつと あらえ』

って、こえが する。

こりや きのせいだべって、

なお、ちから いれて あらうと、

『こぞう、いたいぞ、しりの

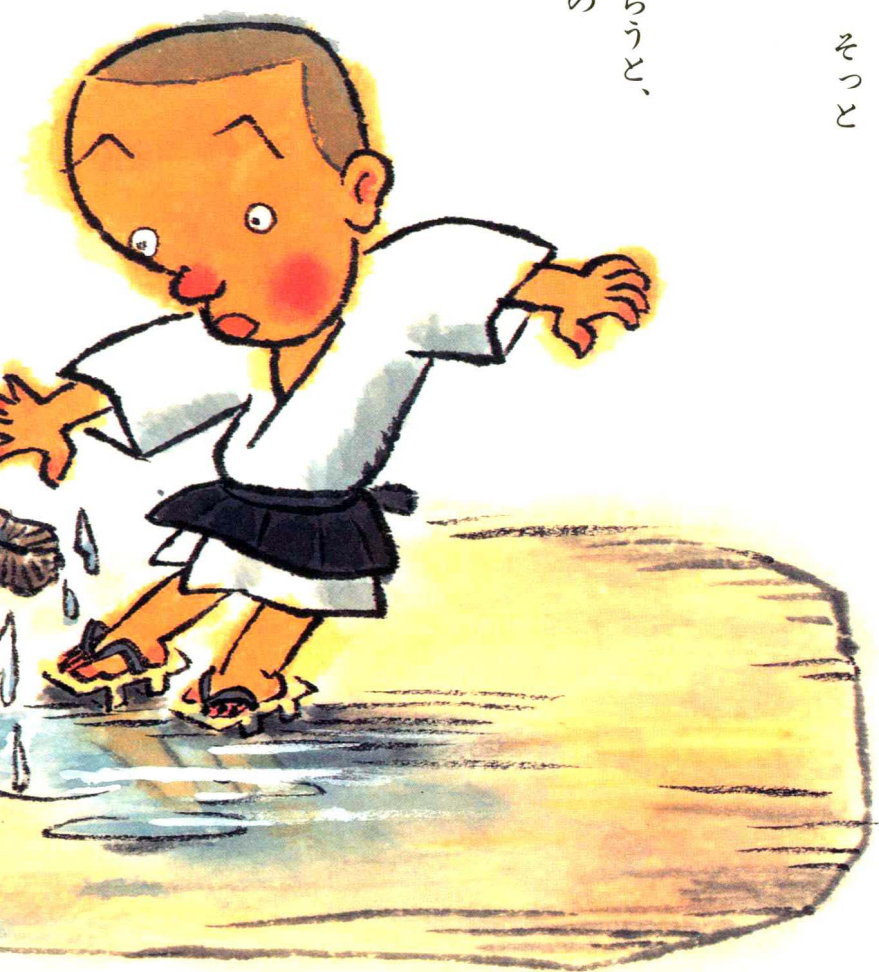
かわ むける。

もそつと そつと そつと

やさしく あらえ』

って、こんどは はつきり

きこえた。



「おしょうきーん、
ちやがまが
しゃべった」
「ばか こくで ない。
それより あらったら、
ゆを わかせ」

